

5G通信

Vol.39

いま話題の次世代通信「5G」に関する
とっておきの情報をご紹介します

コロナ禍で普及が進む遠隔医療

新型コロナウイルス問題をきっかけに遠隔医療の需要が喚起され、今後5Gの必要性がより高まることが期待されます

新型コロナウイルス流行がもたらした遠隔医療需要

- 新型コロナウイルスの感染拡大は、社会において人々の働き方や生活様式などの構造変化をもたらしています。コロナ収束後のニューノーマル(新常态)を睨み、特需を生み出す可能性のある分野のひとつとして、注目されているのが遠隔医療です。
- 感染症のパンデミック(世界的大流行)による医療体制の崩壊や院内感染が問題視されました。そんな中、医療スタッフと感染患者の非接触をかなえるニーズから普及が進んでいるのがICT(情報通信技術)を活用した「オンライン診療」などの遠隔医療です。

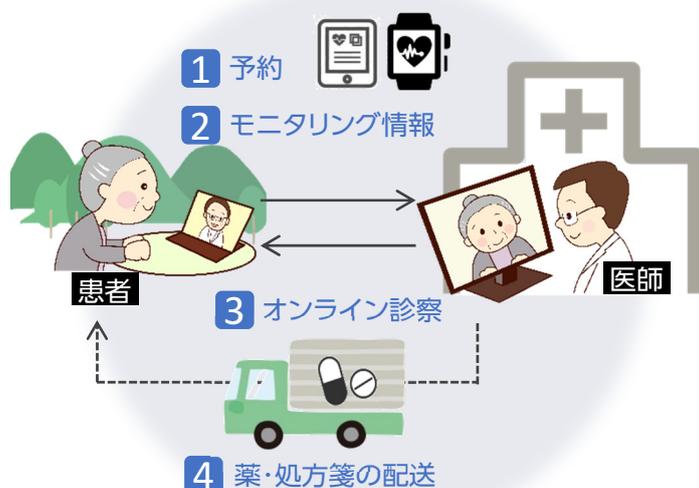
オンライン診療は医療体制を効率化し、へき地医療や感染拡大防止にも有効

- 「オンライン診療」は、スマートフォンやパソコンの画面越しに医師の診察を受け、支払いはクレジットカード、電子決済などで行います。ICT化で医療現場の生産性を高め、コストを削減し、へき地に住む患者の利便性の向上にもつながると期待されています。
- 新型コロナウイルスの感染拡大により通院が難しくなった患者に対し、米国や英国、中国などは保険適用を認める動きによって「オンライン診療」は世界的に普及が加速しています。日本でも4月から初診の診療も含め規制緩和されました(時限措置)。
- チャットや動画などで初期症状をチェックし、感染リスクを通院前に判断することができるため、院内感染拡大の防止にも有効であるとされています。

活用分野の広がりが期待される遠隔医療

- その他、重症患者の治療でも、少ない専門医で多くの患者を診るためオンライン上で病院同士の相互支援・連携が可能な遠隔診療の重要性も高まっています。
- また、病院内で搬送や消毒をする「無人作業ロボット」も需要の高まりで増産が進みました。事業を手掛けるスタートアップ企業に商機が訪れています。
- 新型コロナウイルス問題をきっかけに普及が進んだ遠隔医療の活用分野をさらに広げるためには、ITシステムの基盤強化が必要で、5G(第5世代移動通信システム)は重要な役割を担うと考えます。

オンライン診療のイメージ図



医療用自動搬送のロボットとベッド



※イラストはイメージです。



【 ご留意事項 】

- 当資料は三井住友トラスト・アセットマネジメントが投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆様へ帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他の一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。